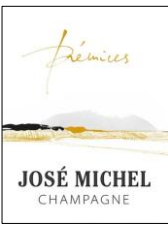
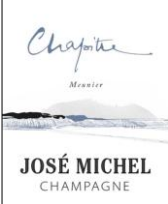
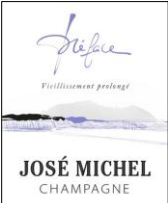
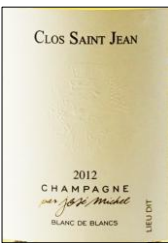


ミシェル家はエペルネ南部のムースイ村で1847年から続くブドウ農家で、1955年から5代目にあたるジョゼ・ミシェルが責任者となり、以来、伝統手法と古典原理を堅守して長命なシャンパーニュを生産してきた。レコルトン・マニュピュランの先駆者でもあり、ピノ・ムニエの価値を世に知らしめたことは、忘れてはならない彼の功績だ。2019年11月にジョゼが亡くなり、孫のアントナン・ミシェルへと世代交代した。祖父から受け継いだ伝統を敬意を払いつつも、同世代のグローワー・シャンパーニュの生産者達から多くの影響を受けているアントナンは、バイオロジック栽培の転換や醸造設備への投資を行い、2021年の収穫をベースとするシャンパーニュからエチケットを一新。エチケットの変更はメゾンのイメージも大きく変えてしまう変化ではあるがアントナンにとっては、どうしても必要なことで、新たなジョゼ・ミシェルのシャンパーニュ造りに直往邁進する。

◎Prémices ブレミス				備考	
	畑	品種：ピノ・ムニエ70%、シャルドネ30% 植樹：1970～2000年代 土壌：粘土・石灰質	醸造		
					旧トラディションと同格である、メゾンのエントリーレベルのシャンパーニュ。エペルネ近郊、ヴァレ・ド・ラ・マルヌからの畑のブドウを使用。細身で伸びやかな、新生シャンパーニュ・ジョゼ・ミシェルの名刺代わりのシャンパーニュ。世代交代とともに、新しいキュヴェ名とエチケットに変更。
◎Chapitre Meunier シャピートル ムニエ				備考	
	畑	品種：ピノ・ムニエ100% 植樹：1960～2000年代 土壌：粘土・石灰質	醸造		
					リザーヴ・ワインを不使用、もしくはほとんど使用せず、単一品種の単一年（モノ・アネ）の表現に絞ったシャピートルシリーズのピノ・ムニエ。世代交代とともに、新しいキュヴェ名とエチケットに変更。 2021VTベースはリザーヴ・ワイン10% 2022VTベースはリザーヴ・ワイン0%
◎Préface Vieillessement Prolongé ブレファス・ヴィエイスマン・プロロンジェ				備考	
	畑	品種：ピノ・ムニエ70%、シャルドネ30% 植樹：1970～2000年代 土壌：粘土・石灰質	醸造		
					キュヴェ・ブレミスの長期熟成版（Vieillessement Prolongé）。毎年1,000～2,000本のみを選び抜き、より長く熟成させる特別ロット。ベースはキュヴェ・ブレミスと同じだが、瓶詰時のドザーージュを控えめにし、瓶内シュール・リー熟成を長くすることで、キュヴェ・ブレミスにはない複雑味をシャンパーニュに与える。
◎Blanc de Blancs - Clos Saint Jean ブラン・ド・ブラン クロ・サン・ジャン				備考	
	畑	品種：シャルドネ100% 位置：真南 土壌：粘土・石灰質	醸造		
					ミシェル家が、1971年にヴァレ・ド・ラ・マルヌのサン・タニャンに購入したシャルドネの区画。粘土の混じった石灰質土壌はシャルドネに向いており、真南向きで日当たりが良く、健全なブドウが収穫しやすい。果実がしっかりと熟するため、マロラクティック発酵はなし。

	◎Grand Vintage グランド・ヴィンテッジ			備考	アーモンドとフレッシュなノワゼットをベースに上品な口当たり。アロマと際立った新鮮さがとてもよいバランスをとる。 上品なこのミレジムは昼食のご馳走、焼き魚、ヒラメ、調理された白身の肉のクリームソース合えと相性がよい。
		品種：シャルドネ、ピノ・ムニエ 植樹：1953年（シャルドネ）、1955年（ピノ・ムニエ） 土壌：粘土・石灰質	醸造 ステンレスタンクで6日間醗酵 小樽熟成させたワインをアッサンブラージュし、さらにゆっくりとステンレスタンクで熟成 その後瓶内澱上熟成		
	◎Special Club スペシャル・クラブ			備考	ジョゼ・ミシェルの所有する畑の中でも、高樹齢のブドウ樹セレクションのプレスティージ・キュヴェ。長期熟成の見込める年のみ造られ、瓶内シュールリー熟成期間が長い。 1970年代に高品質志向のレコルタン・マニピュランの生産者でのクラブを立ち上げた。ヴァン・クレール（瓶内2次醗酵前のワイン）の段階で、上質なものをだけをスペシャル・クラブ統一のボトルに瓶詰め。
		品種：ピノ・ムニエ、シャルドネ 植樹：1920年代 土壌：粘土・石灰質	醸造 ステンレスタンクにて醗酵（一部樽発酵）、樽熟成ワインをアッサンブラージュする ステンレスタンクとバリック樽で6か月間熟成 その後瓶内澱上熟成		
	◎La Cuvée du Père Houdart /Assemblage 71/75/82/84/11 ラ・キュヴェ・デュ・パール・ウダール / アッサンブラージュ			備考	古いミレジムは全て瓶内2次醗酵後のボトルを、瓶口を下にした状態で保管されている。栓は、コルクやカプセルなど様々。醸造時は、これらのボトルを全て一度ステンレスタンクに空けて、その年のヴァン・クレールとブレンドする。数ヵ月落着かせてから瓶詰めをして、改めて瓶内二次醗酵をする。2〜3年後にデゴルジュマンをして、また数年寝かせてからリリース。 琥珀色の艶と透明感のある色合い。飛びぬけて複雑な香りと、トースト香。熟成感も持たせつつ見事なまでに滑らかで余韻は長く、若めのVTからのフレッシュな印象もある。 ドザージュ：4g/L デゴルジュマン：2014年3月12日
		品種：ピノ・ムニエ40%、ピノ・ノワール40%、シャルドネ20%	醸造 ステンレスタンクで発酵 ステンレスタンクで熟成 その後タンク内でアッサンブラージュ		
	◎La Cuvée Hommage/Assemblage 71/75/76/82/84/95/05/10/19 ラ・キュヴェ・オマージュ / アッサンブラージュ			備考	古いミレジムは全て瓶内2次醗酵後のボトルを、瓶口を下にした状態で保管されている。栓は、コルクやカプセルなど様々。醸造時は、これらのボトルを全て一度ステンレスタンクに空けて、その年のヴァン・クレールとブレンドする。数ヵ月落着かせてから瓶詰めをして、改めて瓶内二次醗酵をする。2〜3年後にデゴルジュマンをして、また数年寝かせてからリリース。 琥珀色の艶と透明感のある色合い。飛びぬけて複雑な香りと、トースト香。熟成感も持たせつつ見事なまでに滑らかで余韻は長く、若めのVTからのフレッシュな印象もある。 アントナンの祖父ジョゼへのオマージュとして造ったキュヴェ。 ドザージュ：4g/L
		品種：ピノ・ムニエ40%、ピノ・ノワール40%、シャルドネ20%	醸造 ステンレスタンクで発酵 ステンレスタンクで熟成 その後タンク内でアッサンブラージュ		

	◎ Premices Rosé プレミス・ロゼ			備考	ベースとなるワインは、プレミスと同じ。瓶詰の前に、赤醸造1-2年熟成させたピノ・ムニエをブレンドした、ロゼ・ド・アッサンブラージュ。果実味が味わいの中心ではなく、スリムで垂直的なボディーを目指したロゼ・シャンパーニュ。世代交代とともに、新しいキュヴェ名とエチケットに変更。
	畑	品種：ピノ・ムニエ50%、ピノ・ノワール30%、シャルドネ20% 植樹：1970年代 土壌：粘土・石灰質	醸造		
参考：エチケット変更以前のキュヴェ					
	◎ Tradition トラディション			備考	リザーヴワイン比率40%の、エントリーレベルのシャンパーニュ。 ジョゼ・ミッシェル氏は、熟成型の優雅なピノムニエ種を主体にしたレコルタン・マニユピラン（自社畑・自社醸造）の生産者。樹齢の高いブドウから造られ、クリーミーで強烈な味わいと熟成香による奥行きが自慢です。
	畑	品種：ピノ・ムニエ70%、シャルドネ30% 植樹：1970年代 土壌：粘土・石灰質	醸造		
	◎ Pinot Meunier ピノ・ムニエ			備考	ドザージュ：9g 外観：薄い金色、細かい泡 香り：キャンディーと、心地よいエキゾチックフルーツ 味わい：ふくよかな香りに、キレのある酸。余韻も長い。過度な果実香が無いため、ペアリングの幅が広い。
	畑	品種：ピノ・ムニエ100%	醸造		
	◎ Rosé ロゼ			備考	リザーヴワイン：10%～30%+9%赤ワイン 外観：赤いバラの花びら色 香り：表情豊かな開いたブーケ-カシス、木イチゴ、ブラックベリーの赤い果実、キャンディーにスパイス。 味わい：良質で気品がある。木イチゴ、カシスの芽などの赤い果実。 ニワトリ、アヒルなどの家禽や赤系果実のデザートとの相性がよい。
	畑	品種：ピノ・ムニエ50%、ピノ・ノワール50% 植樹：1982年 位置：231m 土壌：粘土・石灰質	醸造		